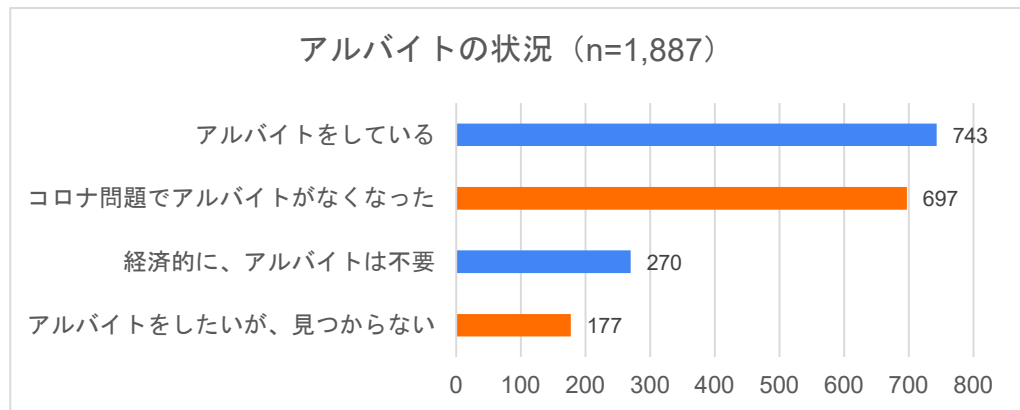


新型コロナウイルス感染症による日本語教育機関に在籍する留学生生活への影響アンケート

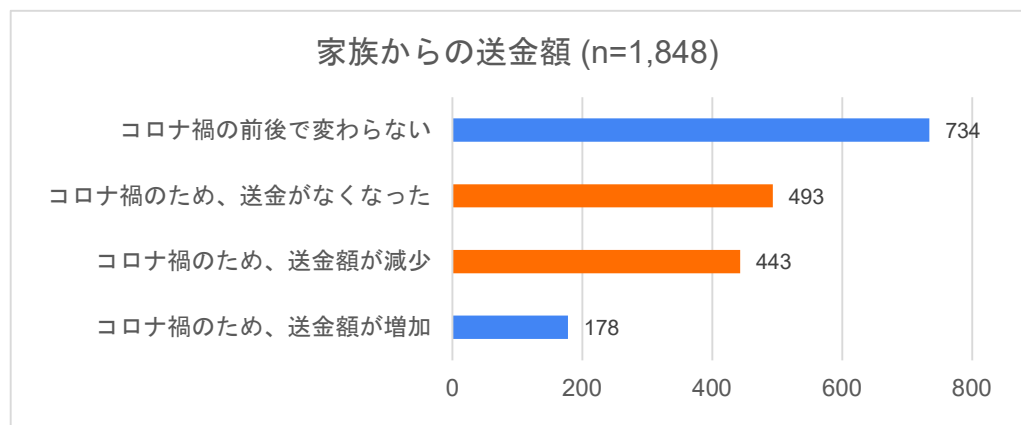
日本語教育機関関係6団体

表題のアンケートを日本語教育機関に在籍する留学生を対象に実施し、1,887名より有効回答を得た。（回答期間：2020年4月17日～30日）

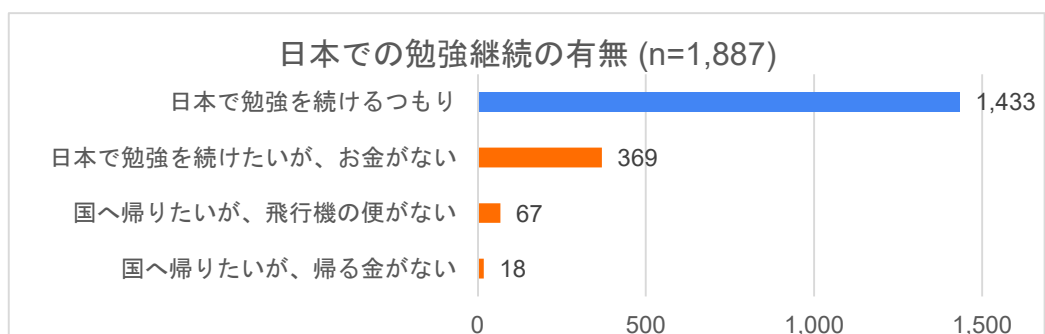
1、今回のコロナ禍によりアルバイトがなくなった学生が回答者の37%（697名）、アルバイトをしたいけれども見つからない学生が9%（177名）いる。



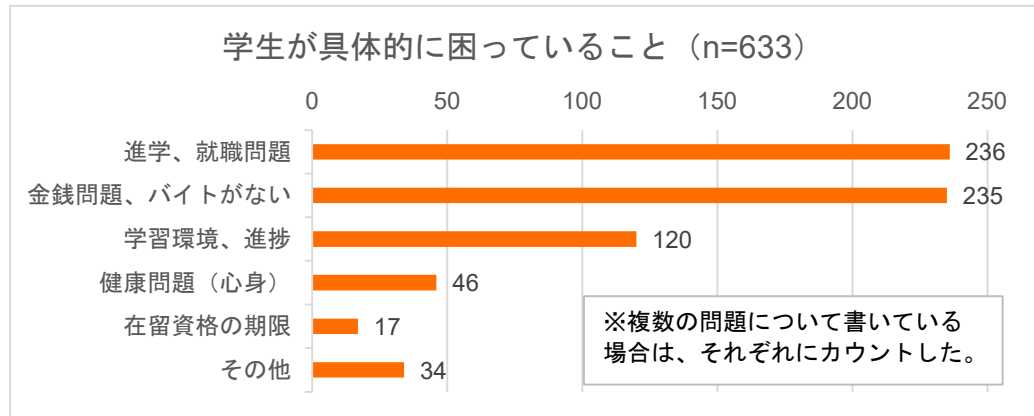
2、コロナ禍により家族からの送金額が減少した学生は全体の27%（493名）、送金が途絶えた学生は24%（443名）で、合わせて約半分になる。



3、日本で学習を継続をする見込みの学生は、全体の76%（1,433名）を占めるが、金銭的事情で勉強継続が難しい学生が20%（369名）いる。



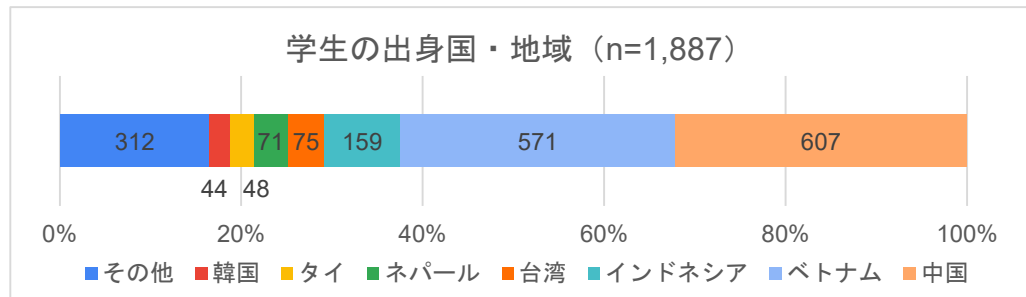
4, 「具体的に困っていること」に関する自由記述を分類してみると、金銭問題と進路問題が多数を占める。



(困っていること)※学生の記述内容をまとめたもの。

- ① アルバイトがなくなったり、少なくなって生活費が足りない。
- ② 日本語学校や進学先の学費の支払い目途がたたない。
- ③ 母国の為替レートが下がって、円ベースの送金額が減少してしまう。
- ④ 在宅時間が増えて、光熱費が増している。
- ⑤ 大学等の入試スケジュールが中止、延期等ではっきりしない。
- ⑥ 大学等の出願要件の日本留学試験、日本語能力試験、TOEICの実施が不確か。
- ⑦ 就職活動ができない。
- ⑧ 帰国したくても、国に帰れない。
- ⑨ オンライン授業に対して、Wi-Fi環境が整っていない。
- ⑩ 休校やオンライン授業により、学習の遅れが生じている。
- ⑪ マスクや消毒用のアルコールが買えない。

5, 回答者の出身国、地域は、48を数え、中国とベトナムで60%超を占める。



以上